

要人往来

JATAは2016年度事業計画で「日本人海外旅行者2000万人達成」を最重要方針に掲げ、海外旅行マーケットの本格的な回復を目指していますが、デスティネーションの多様化も促すかのように、これから観光開発を本格化しようとしている国々からも日本市場に熱い視線が向けられています。



(大使右隣りは中村理事長)



ラバブ・ファティマ 駐日バングラデシュ大使

直行便就航で日本人旅行者増を バングラデシュ 2月26日(金)

ラバブ・ファティマ 駐日バングラデシュ大使

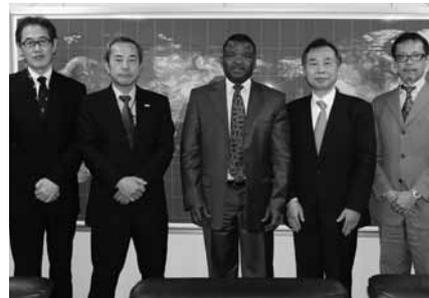
中村理事長を訪れ、「世界で最も大きいマングローブや文化遺跡など観光資源が豊富で、観光産業の発展が期待されています。大使館としてはJATAと協力しながら、ノウハウを学んでいきたい」と語り、バングラデシュへの旅行者誘致で協力を要請。「バングラデシュと日本の両国航空当局による交渉も進められており、日本からの直行便が就航すれば、日本人旅行者も増えるでしょうし、観光分野をはじめ様々な分野で日本からの投資も促進したい」と期待を示しました。中村理事長は、「バングラデシュに関する知識を深めてもらうため、具体的な情報提供を行い、観光促進活動を継続することで、シニア層などにアピールできます」と応じました。



(大使左隣りは越智事務局長)



ンディヨイム・ムティティ 駐日ザンビア大使



(大使右隣りは中村理事長)



ジェーコブ・ディッキー・カンカテ 駐日ボツワナ大使

JATA代表を南部アフリカフォーラムへ招待 ボツワナ 3月16日(水)

ジェーコブ・ディッキー・カンカテ 駐日ボツワナ大使

中村理事長を訪れ、6月に開催される予定の「南部アフリカ日本ビジネス投資フォーラム」に招待する意向を伝え、「南部アフリカ諸国は観光産業の発展を重視しており、JATAの代表にパネルディスカッションへの参加をお願いしたい」と要請。中村理事長は、招待への謝意を伝えると同時に、「南部アフリカフォーラムを通じて、南部アフリカ諸国における経済や観光産業の発展に貢献したいので、参加させていただきます」と応じました。ボツワナもメンバー国である南部アフリカ開発共同体(SADC)は、タンザニアやザンビア、モザンビーク、アンゴラ、ジンバブエなど南部アフリカの10カ国以上が参加しており、観光開発も域内における重要テーマの一つとなっています。

多様な魅力を日本でも発信 ザンビア 3月1日(火)

ンディヨイム・ムティティ 駐日ザンビア大使

JATA本部を訪問し、「ビクトリアフォールや国立公園の大自然に加えて、多民族の祭りなども人気を集めています」とザンビアの観光資源を紹介。「ザンビア政府は新しい観光地の開発にも努めており、その魅力を日本でも発信して、日本人旅行者のザンビアでの滞在を長期化することにも努めていきたい」と意欲を示しました。越智事務局長は、日本の旅行会社がツアー商品多様化のため、新しいデスティネーションを求めていることに言及し、「ザンビアの文化などを紹介するセミナーやイベントの実施により認知度を高めれば、旅行者増につながるでしょう」と話しました。

英文ページはメールにて配信 します

今号より、英文ページの「Travel Industry Monthly Report」については、本誌『じゃたこみ』には掲載せず、2カ月に1回、「Japan Travel Market & JATA Activity Update」として、メールにて配信いたします。

配信ご希望の方は、メール(press@jata-net.or.jp)にて、メールアドレス等をご連絡いただけますようお願いいたします。



The English pages to be delivered by e-mail

Starting with the next issue, "JATA COMI" will not include the "Travel Industry Monthly Report." Instead, the report will be delivered separately by e-mail every two months under the title "Japan Travel Market & JATA Activity Update."

To subscribe, please contact us at press@jata-net.or.jp.